

ヤマネコデーの設定 対馬名所カルタづくりなど

クローズアップ

対馬が好きだから

提案

豊玉町
加志々中学校
3年生14人の

発信



「かたらんね市長室に参加したいのですが」という中学生からの電話が、地域再生推進本部にかかってきました。そのことを担当から聞いた市長は、「行って話を聞こう」と学校へ車を走らせました。

加志々中学校（松永博幸校長）3年生、14人が取り組みを行っている総合学習「対馬学」は、自然の良さを知らうと外部から専門の講師を招き対馬の自然と歴史、やまねこの生態を学んでいます。

また、学校近辺の沿岸清掃も行い、白嶽登山、ヤマネコセンターへ見学など自然の豊かさ、素晴らしさを直接体験すると同時に、生徒自らが、今まで知らない島の顔を発掘することができたようです。

しかし、歴史や文化、自然の壮大さに感銘する傍ら、地域のことを地域の人知らない、自然が失われているなどの問題点が浮かび上がりました。

自然の良さを守り、伝えていくために何ができるのでしょうか。生徒たちが知恵を絞り問題解決の為に話し合う。解決するためには学んだことを

発信し、出来ることから行動を勇気とやる気が1月20日、市長への提案へと実現しました。

市長へ提案

ツシマヤマネコデーの設定

島民みんなで考えよう



ヤマネコデーの必要性を提案する赤木佳奈さん

交通事故による死亡、トラバサミによる被害、自然環境の悪化による餌不足などによりツシマヤマネコが減少しています。絶滅危惧にあるツシ

マヤマネコを大切にしていくなか、気持ちを醸成していく契機とするために「ツシマヤマネコデー」を設定し、ヤマネコ保護に関するイベントや、近所の未使用山林の手入、植樹を全島あげて実施してはどうですか。「ツシマヤマネコデー」の設定については、一年間で交通事故等が多発している日に設定してみてもどうですか。

市長へ提案

対馬名所カルタづくり

地域の人々が地域を知ろう

総合学習を進めるうちに対馬に住んでいるのに対馬を知らない人が多いことに気づきました。

島に住む多くの人に、私たちの住んでいる島の素晴らしさ、自然や文化、歴史などについて知ってもらいたいと考え、遊びながら学べるカルタに着目しました。

今、島の名所をテーマにしたカルタ作りを行っています。完成後、市内の小中学校や幼

稚園、公民館等に配布したいので対応ができませんか。



ユニークな発想がいっぱい盛り込まれているカルタを提案する大浦有貴さん

昨年5月から作成に取り組み、名刺サイズの大きさに万松院、白嶽、漁火、舟志の森、通信使用列など対馬の名所を描いた絵札と読み札を作成、読み札のことは、絵札のデザインも全て生徒が考えました。

絵札と読み札50音でワンセット

生徒が考えたカルタの一例

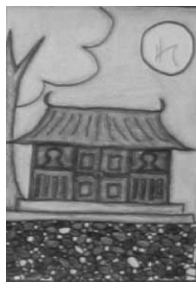
とつあんが
とよからつつで
いのししいい



えぼしだけ
ぐるりみわたす
つしまのぜっけい



れ
つきしある
つしまのめいしよは
ばんししょういん



の
らしごと
ちからじまんの
たいしゅうつま



市長へ提案

漂着ゴミの問題

願いをこめた啓発で

海岸のゴミ拾いを実施し、私たちの出したゴミを始め、韓国や中国などの漂着ゴミが

多いのに気付きました。漂着するゴミの問題を、市民を始め対馬を訪れる日韓の観光客などに理解していただくため、漂着したペットボトルのラベル、ラーメンやお菓子袋のゴミを利用し、ポイ捨て禁止ポスターを作製し、このポスターを厳原港、比田勝港、対馬空港や島内の主要観光スポットに設置したいと考えていますが実現できないでしょうか。

漂着ゴミでつくられている啓発ポスター



ゴミ問題を提案する土脇由香さん

提案を受けて



加志々中生徒の提案とパネルを前に財部市長もこの笑顔

「ツシマヤマネコデー」の設定は、市民を意識した仕掛けとして凄く良い提案と思います。ツシマヤマネコ基金条例を制定し、基金を集める手法を、民間企業と提携し現在実施しています。この基金を活用し、「ツシマヤマネコデー」に充てていく仕組みを作り上げていきたい。また、対馬名所カルタづくりは、カルタの文、絵ともにユニークな発想で素晴らしいと思います。以前手作りカルタを作成した経緯もあるので経験を生かし実現できるよう対応します。「漂着ゴミの問題」は、

ポスターの文字部分に漂着ゴミを利用しており発想が素晴らしいです。基本的に、これからの対馬を担うみなさんの言うことは実施したいと考えています。



市長の説明を真剣に聞く生徒たち

一本の電話から始まった市長への提案。ふるさとを学ぶことで郷土愛が生まれ、必然的に自然が好きになります。加志々中生徒の島を愛する純粋な気持ちに心が浄化される一方私たち大人も考えさせられました。今、何が出来るのか「通学路を歩く生徒を見てふと思えます。次世代に誇れる島にしておこななくては。」